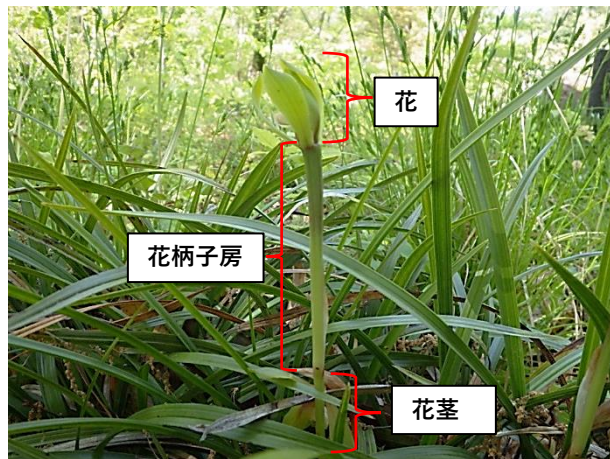


## 植物多様性センターの「のっぽのシュンラン」

シュンランは早春に咲くラン科の植物です。ところが、春の終わりに雑木林を歩くと、花が終わったはずなのに、まだ咲いたままに見える「のっぽのシュンラン」が見つかります。よく見ると花茎が伸びたのではなく、種子ができる器官の花柄子房が伸びています。大きくて背の高い蒴果をつけることは、埃のように小さな種子をより遠くへたくさん飛ばすというシュンランの生き残り戦略のようです。



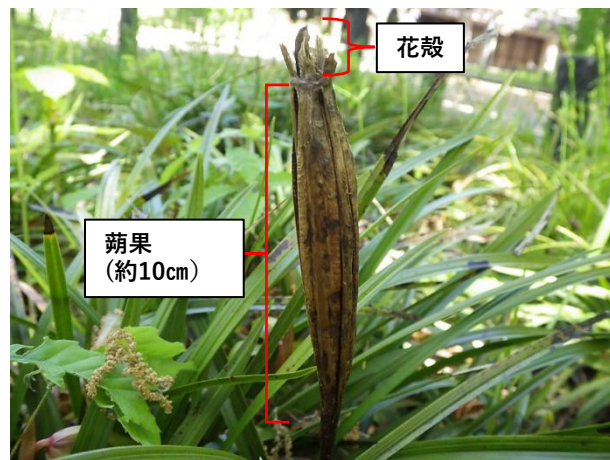
開花:3月の終わりごろから常緑の葉に守られるように開花する



花後:花をつけたまま、葉の上に突き抜けている花柄子房



花後:受精せずに、花茎ごと萎れ始めたシュンランの花



昨年の蒴果:裂けたスリットから数万粒の種子を散布する